

特集

検索用CD-ROMと病院図書室

文献検索用CD-ROMの利用動向と図書館の環境整備

前田元也

1. はじめに

近年のコンピュータや情報技術の発展は著しく、病院図書室の文献検索サービスも、冊子体二次資料の利用から、CD-ROMやオンライン、インターネットなどの電子メディアの利用へと大きく移行してきている。

これらの変化の中で、病院図書室でも従来のように、単に二次資料を所蔵するだけではなく、こうした新しいメディアを整備していくことが必要不可欠の課題となってきた。

近畿病院図書室協議会発行の『図書室年次統計調査報告書(平成8年度)』版によると、検索用CD-ROMの導入状況は、MEDLINEで58施設(導入率70%)、医学中央雑誌で57施設(導入率69%)、また、どちらも導入している施設が50施設(導入率60%)である。導入施設の大半はMEDLINEと医学中央雑誌を併せて導入しているようである。また、他の媒体(オンライン、インターネット、冊子体二次資料)と比較してもCD-ROMの導入率は高くなっている。[表1]

すなわち、病院図書室では、検索ツールとしてCD-ROMを導入する施設が圧倒的に多いということである。CD-ROM検索の利点については、①年間の費用が固定しているため予算化しやすい、②エンドユーザーが時間の制約なしに自由に検索できることなどが挙げられる¹⁾が、年次統計の結果からもこれらの利点が導入の際の要因になったであろうことが推

文献検索の環境

1) CD-ROM検索の導入

MEDLINE	58施設(導入率 70%)	*MEDLINEと医学中央雑誌を併せて導入する施設は50あり 無記入 1施設
医学中央雑誌	57施設 (69%)	
その他	3施設 (4%)	
いずれも無し	17施設 (20%)	

2) オンライン検索の導入 無記入 9 施設

J I C S T	18施設(導入率 24%)	費用負担: 公費 17、一部公費 3、私費 1施設
商用データベース	4施設 (5%)	
NACSIS-IR	11施設 (15%)	導入数: 1種 19、2種 5、3種 7、4種 2施設
インターネット	25施設 (33%)	
いずれも無し	42施設 (56%)	

3) 二次資料(最新版)の所蔵

医学中央雑誌	42施設(所蔵率 51%)	所蔵数: 1種 29、2種 19、3種 6、4種 5、5種 1施設
最新者検索引	25施設 (30%)	
日本看護関係文献集	15 (18%)	その他の内容: Current Contents, Medline Express, International Nursing Index, Cumulative Index to Nursing and Allied Health Literature
EXCEPTA MEDICA	4 (5%)	
INDEX MEDICUS	14 (17%)	
CUMULATED I M	11 (13%)	
その他	3 (4%)	
いずれも無し	25 (30%)	

表1. 「図書室年次統計調査報告書(平成8年度)」版
近畿病院図書室協議会発行

測される。

ここでは、検索用CD-ROMを導入している3施設の利用統計を中心に、その利点について具体的にまとめてみた。また、病院図書室サービスにおける文献検索機能の今後の課題についても、若干考察を加えた。

3施設の概要(病床数、利用対象者数[医師、看護婦、その他の職種]、統計調査期間)は下記の通りである。

H病院(644床, [医師 95名, 看護婦380名, その他342名], 96.9.10~97.9.9)

Y病院(607床, [医師121名, 看護婦423名,

まえだ もとや: 西淀病院図書室

その他244名], 96.1.1~96.12.31)
 N病院 (258床, [医師 35名, 看護婦164名,
 その他172名], 97.4.1~98.3.31)

2. 職種別にみた利用動向

3病院とも利用の中心は医師であった。しかし、利用全体の約2~3割がすでに医師以外のスタッフであることに注目したい [表2, 図1]。病院図書室の利用対象者は、医師より他の職種の方が多数を占めている。従って、図書館側からの働きかけしだいでは、今後、これらの職種の利用が更に拡大する可能性がある。

最近、医療分野の各専門職種を対象にした雑誌などでも、論文の書き方、学会発表・統計のまとめ方などといった記事や論文が目につくようになってきた。また、看護文献の増加^{2) 3)} などに見られるように、各職種の研究活動が活発化していることから、利用拡大の条件は十分にあるとみてよいだろう。

従って、図書館としては医師以外の職種向けの利用指導 (検索説明会, 検索マニュアルの作成・充実, 広報活動など) の工夫と実践が今後の大きな課題といえる。

Y病院の利用統計 [表3] は、医学中央雑誌CD-ROMと、MEDLINE CD-ROMの利用数を職種別に集計したのもである。これをみると医師以外の利用では、国内文献データベースの医学中央雑誌CD-ROMの利用が圧倒的に多い。従ってこれらの人たちに対しては医学中央雑誌CD-ROMの利用指導を重点的におこなう必要があるだろう。

医師以外の職種別利用では、Y病院では看護部が最も多いのに対して、H病院では看護婦について理学療法士, 作業療法士の利用が多い。また、N病院では薬剤師が多くなっており、職種別にも利用指導を工夫しておこなう必要があるのかもしれない [表2, 表3]。

ちなみに、医師の利用に注目してみると、H病院では96名中72名 (76%) の医師が、N病院では35名中25名 (72%) の医師が、それぞれの利用頻度の違いはあるにしてもCD-ROM検索をおこなっていることがわかった。医師の中では、すでにCD-ROM検索が定着していると考えてよいだろう。

3. 時間別にみた利用動向

次にH病院の統計を、利用時間帯別に分析してみた。担当者が勤務する時間 (午前8時30分~午後5時15分) とそれ以外の時間帯で比較してみると、年間の検索総数1,150件中、262件 (22.8%) が、担当者がいない時間外の利用となっている。時間外の利用を更に詳しくみてみると、主として17時から21時までに利用が集中しているようだが [図2]、中には深夜の利用や明け方の利用もあり、利用者が自分の都合の良い時間を利用して検索をおこなっていることがわかる。時間の制約がなくいつでも文献検索できる環境は利用者にとって魅力があると思われる。これは、オンライン検索などの代行検索では、決してまねのできないCD-ROM検索の大きな利点である。

一方、担当者の勤務時間内の利用を時間帯別にみると [図3]、概して午後を利用

	医師	看護婦	コメディカル	その他	代行検索	総件数	対象データベース	利用対象者総数
H病院	938件	114件	44件 (PT,OT 43)	54件	-	1150件	MEDLINE CD-ROM 医中誌 CD-ROM	医師 95名 看護婦 380名 その他 342名 / 合計 817名
Y病院	572件	125件	31件	14件	80件	822件	医中誌 CD-ROM	医師 121名 看護婦 423名 その他 244名 / 合計 788名
N病院	157件	3件	45件 (薬剤師28)	1件	152件	358件	医中誌 CD-ROM	医師 35名 看護婦 164名 その他 172名 / 合計 371名

* H病院の代行検索数は各職種に含まれる
 * () 内はコメディカルの内、最も利用が多い職種と利用数

表2. CD-ROM検索年間利用者総数 [職種別] の比較

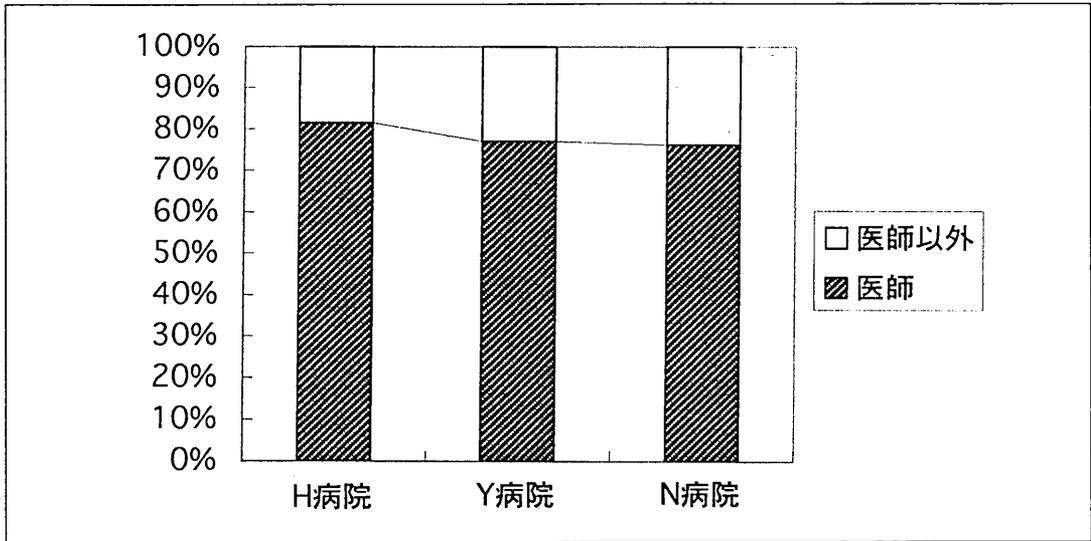


図1. CD-ROM検索 [医師/医師以外の職種] 利用比較

	医師	看護婦	コメディカル	その他	代行	合計
医学中央雑誌	572	125	31	14	80	822
MEDLINE	325	5	7	1	56	394

表3. Y病院の医中誌CD-ROM・MEDLINE CD-ROM の利用比較

が多いが、午前中では10～11時に、午後からは3時以降に利用が多い。勤務時間内でも、利用者は自分で時間を調整して図書室の文献検索サービスを利用しているといえる。

また、休日の利用については、年間で62件(5.4%)であった[表4]。件数としてはそれほど多くはないが、同病院では、この統計をとった期間、休日診療や救急医療はおこなっていない。従って、利用者は当直や休みを利用してゆっくりと調べものを行っていることになる。確かに休日を利用しての検索は、他のことに煩わされなくて、時間をかけて詳細に検索ができる、検索に集中できるなどの利点がある。

図書館側でも積極的に24時間利用を視野に入れてサービスの展開を考えていくことが必要であろう。CD-ROM管理の問題や、担当者がいなくても検索できるように、検索マニユ

ルの作成・充実なども、今後検討すべき課題といえる。

4. 代行検索とCD-ROM

筆者の勤務するN病院では、96年5月からCD-ROM検索を導入した。それまでの代行検索はオンライン検索とマニュアル検索によっておこなっていたが、CD-ROMの導入によって選択肢が増え、次のふたつのことが前進した[図4, 表5]。

ひとつは、検索ツールのメディアが増えたことで、個々の利用者の要求に即した情報を提供できるようになってきたことである。利用者が求める情報要求は実にさまざまで、例えば「臨床に役立てたいので参考までに文献に目を通しておきたい。」というものから、「学会で発表するので漏れなく文献を検索したい」など、前者と後者では明らかに大きな

土曜	日曜	祭日	総検索数
15	44	3	62/1150 (5.4%)

表4. 休日のCD-ROM検索利用状況(H病院)

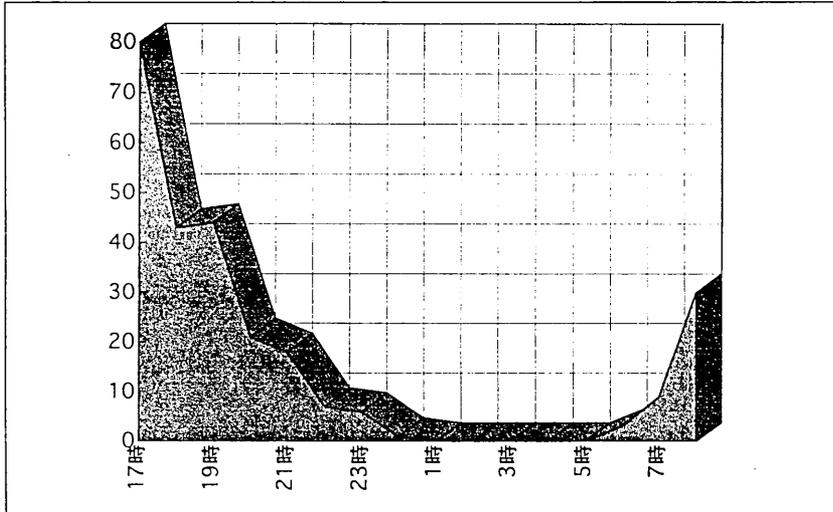


図2. 担当者勤務時外の利用件数推移 (H病院)

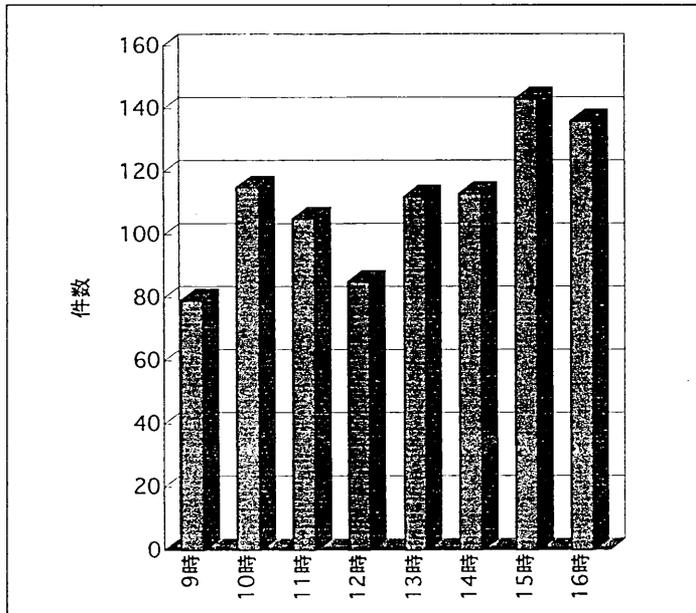


図3. 利用時間別の推移 (担当者勤務時間内) H病院

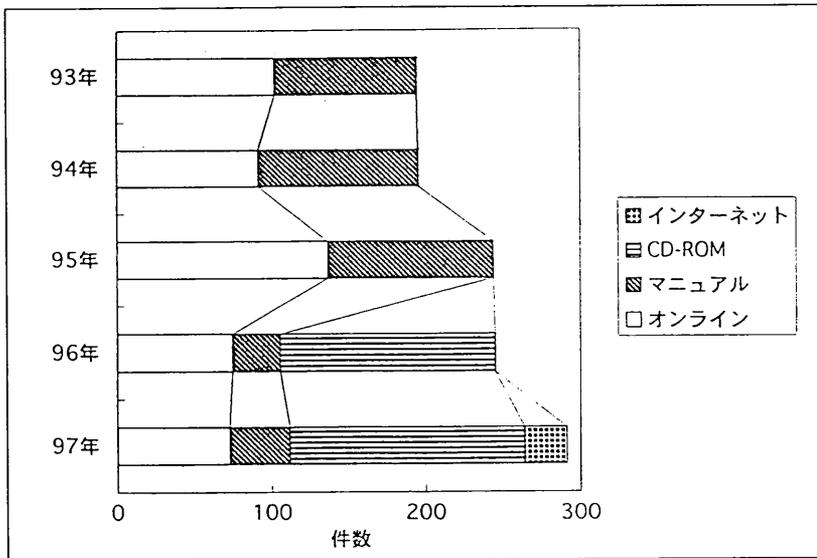


図4. 代行検索 [オンライン/マニュアル/CD-ROM/インターネット] の推移(N病院)

	CD-ROM検索	オンライン検索	インターネット	マニュアル検索/他	検索総数
93年	-	103	-	92	195
94年	-	92	-	104	196
95年	-	137	-	107	244
96年	139	75	-	31	246
97年	152	73	27	39	291

*CD-ROM検索 (1996年5月から導入) *インターネット(1997年4月から導入)

表5. N病院代行検索 (CD-ROM/オンライン/インターネット/マニュアル検索の比較)

違いがある。前者は最新の関連文献をいくつか提供することでよいかもしれないが、後者では、検索テクニックを駆使して、可能な限り漏れのない情報を提供しなければならない。従って、前者の場合はCD-ROM検索のみで十分な情報を引き出せるだろうが、後者では、やはりオンライン検索も併用する必要がある。このように検索の内容や目的によって、図書館員が各検索用メディアの特徴、長所や短所を考慮に入れてツールを選択し、利用者の要求にあった情報を提供できるようになった。

もうひとつは、文献検索に対する利用者の

要求を換気することができた点である。実際、CD-ROM検索を導入したことで、代行検索の件数が減少するどころか逆に増加している。これは、利用者になれば、図書館員に時間をかけてマニュアル検索をしてもらうことや、料金を気にしつつオンラインで詳細に検索してもらうことに対する気持ちの負担を軽減することことができたのではないかと推測される。CD-ROM検索が導入されたことで、気軽に図書館員に依頼ができる条件が広がってきたと解釈できないだろうか。

また、エンドユーザーがCD-ROM検索の検索

機能を十分に使いこなせなかったり、操作に十分に慣れていないために、図書館員に代行検索を依頼してくることも代行検索件数が増加している一因となっていると考えられる。

いずれにしろ、検索用CD-ROMの導入によって、文献検索に対する利用者の感心が高まり、ニーズが換気されていることには間違いないようだ。

ちなみに、N病院ではCD-ROMの導入に伴ってオンライン検索、マニュアル検索の件数が大幅に減少している。

5. まとめ

CD-ROM検索の利用動向を、3病院の利用統計を中心に、いくつかの角度からまとめてみた。

検索用CD-ROMの利点についてまとめてみると、

<利用者の立場から>

- ・時間の制約やコストの心配がなく自由に検索できる。
- ・検索にかかる時間の短縮化
- ・自らCD-ROM検索をして必要な文献が得られなかった場合は、気軽に図書館に検索が依頼できる。[代行検索]

<図書館員の立場から>

- ・すべての利用者を対象に、時間やコストの制約なく検索サービスが提供できる。
- ・異なった種類の複数の検索ツールもつことで、利用者の要求に応じた文献情報が提供ができる。[代行検索]

など、病院図書室の文献検索機能の向上に寄与するところが大きい。

今後、CD-ROMなどのニューメディアの技術は、更に改良されより簡単な操作で正確な情報が入手できるようになるだろう。利用者が直接データベースにアクセスをして、文献を検索する機会が増えると思われる。すでに個人の研究者向けに分野別に編集されたCD-ROMが比較的安価で発売されていたり、インターネットや、パソコン通信を通して文献検索ができる時代になってきている。従って図書館に持ち込まれる文献検索依頼は、より高度で難解複雑なものになるかもしれない。図書館員のさらなる資質向上も課題であろう。

最後に、今回の報告をおこなうことで、文献検索におけるCD-ROM導入の効果、サービスのあり方を考える機会を得た。

今後の病院図書室文献検索サービスの充実に少しでも役立てば幸いである。

統計データをご提供いただいた各病院に感謝いたします。

【参考文献】

- 1)伊藤勝:オンライン検索とCD-ROM検索の違い-特にJMEDCINEと医中誌CD-ROMを中心に、病院図書室、15(3):98-103, 1995
- 2)首藤佳子:看護職員への利用促進の試み、病院図書室、15(4):127-130, 1995
- 3)今田敬子:看護文献と図書室の活用、看護学雑誌、59(4):298-303, 1995